

第4期宇治市生涯学習審議会 第6回審議会

会議名	第4期宇治市生涯学習審議会 第6回審議会
日時	平成22年4月20日(火) 午後1時30分から3時
場所	宇治市生涯学習センター 2階 一般研修室
出席者	(委員) 森川 知史 委員長、奥西 隆三 委員、門脇 洋子 委員、迫 きよみ 委員、向山 ひろ子 委員、弓指 義弘 委員、渡辺 孝明 委員、坂田 耕作 委員、清水 桂子 委員、原 保彦 委員、古川 彩 委員、俣野 良子 委員、六嶋 由美子 委員
	(事務局) 澤畑 信広 教育部次長兼生涯学習センター所長、山花 啓伸 教育改革推進室長、安達 昌子 生涯学習課主幹、久泉 昭人 生涯学習課主幹、原 常能 生涯学習課生涯スポーツ係長、上野 映子 生涯学習課生涯学習係長、森 敦子 生涯学習課主査、佐野 雅俊 生涯学習課主事
	(傍聴者) 1人
<p>前回の会議録について、委員からの意見が特になかったため、公開することとなった。</p> <p>事務局職員の定期人事異動に伴う自己紹介。</p> <p>開会のあいさつ (委員長) コミュニケーションに関する議論をしてきたが、そろそろ具体的な話に入っていきたいと思うので、積極的なご意見をお願いしたい。</p> <p>(1) 報告事項 (事務局) ・平成22年度宇治市教育委員会組織図について 4月26日より、本庁6階の生涯学習課と生涯学習センターの事業係が統合し、生涯学習センター2階に移転することとなった。</p> <p>(2) 協議事項 ・コミュニケーションについて (委員長)</p>	

第4期宇治市生涯学習審議会 第6回審議会

「コミュニケーション」ということばは、あらゆるところで聞かれる。生涯学習（社会教育）の大会などでもこのことばが聞かれないことはない。ただ、そこで使われる「コミュニケーション」ということばが、単に「話し合い」程度の意味でしか使われておらず、「コミュニケーション」の本質を踏まえていないことで、折角の議論や論点の絞り込みに活かされていないのが残念である。

そこで第4期の「生涯学習審議会」では、「コミュニケーション」の本質を議論することを通して、本委員会の構成員が「コミュニケーション」ということばをより深い意味で用いられるようになり、人間関係や地域社会のありようを考えていくときにより精緻な議論ができるようになることを目指した。

それぞれが属する（属した）団体や組織、近隣関係、地域社会での人間関係を「コミュニケーション」という観点から見つめ直すためのアンケートも実施して、報告書にまとめることとした。

（委員長）

コミュニケーションに関する考え方を別紙資料にまとめてあるので参考にさせていただきたい。

最近では、コミュニケーション不足などコミュニケーションという言葉が世の中に飛び交っている。しかも、コミュニケーション不足など問題がある時に限ってよく出てくる。

コミュニケーションとは言葉を交わすだけではなく、もっと広い言い方である。コミュニケーションは技術ではなく、人とのかかわり、経験によって生まれるものである。コミュニケーションを交わす場の中で、何に気付いていくかという点が非常に大きい。我々は何かに気付くことによって変わり、自分を成長させていくのである。

この委員会の中で、今までよりコミュニケーションの捉え方を変えていただくことが生涯学習の一步となると思う。

- ・コミュニケーションの参考資料についての説明

（委員）

なかなかコミュニケーションがうまくいかない。あと一言が足りないことが多い。

ほう・れん・そう（報告・連絡・相談）が大事であるが、実践することはなかなか難しい。

質問する力もコミュニケーションの一部ではないか。

（委員）

自分は今までコミュニケーションを実践してきたが、コミュニケーションということが分からなくなった。最近では人間関係が表面上だけで行われ、本音でぶつかっていない。

（委員）

（自分の所属している団体に対して）何故この団体に入ったのか？

第4期宇治市生涯学習審議会 第6回審議会

それは、楽しそうだから。しかし、その後から、居心地が良い、安心して話ができるこの場所が好きだと感じるようになった。

(委員)

自分の住んでいる地区はクレームが少ないのは何故だろうか？
クレームは自分が自分であるという意識を強くもった時に出てくるものだと思う。

(委員長)

クレマーは都会化が原因の一つである。自分がクレームの問題に対してどう係わっていくかまで考えを深め、行動していけばクレームはなくなっていくのではないかと思う。
前回、あいさつのお話が出たが、あいさつを交わすだけでは意味がない。あいさつを交わした先に意味がある。

(委員)

最近では町内の総会でも意見が出なくなってきた。言葉同士のやりとりではなく、体と体とのぶつかり合いの中で、コミュニケーションというものが出てくるのが本当のコミュニケーションにふさわしいのではないかと思う。

(委員長)

私のマンションの住人の方々は、なかなか町内会に参加しない。来てもお年寄りなどの高齢者の方が多い。

(委員)

前回までは世間という言葉を意識しなかったが、前回のお話を聞いて実は世間を非常に意識していたことが分かった。世間がどう思うか、世間がどういうのか、このことを前提として行動していた。

(委員長)

(前回の空気という話を踏まえて)今の学生達は世間というものが分からなくなってきた。しかし、世間を意識している。今の若者は、世間という言葉を使わず空気という言葉を使っている。しかし、結局は空気という言葉は世間の言い換えではないだろうか。

(委員)

私の故郷は男社会である。それゆえ、このような会議などの場において、女の人々の発言力の弱さ、コミュニケーションのなさ、能力不足というものを感じてきた。そして、男の人と対等に話すことはなかなか難しいのが現状である。

(委員)

人との付き合い方は、時代の流れの中で変わっていくものと自分に言

第4期宇治市生涯学習審議会 第6回審議会

い聞かせなければならない。しかし、自分には昔の人付き合いはよかった、というイメージがあり、少しでも昔に戻りたいという気持ちがあるので、回覧板で参加者を募るのではなく、個々で直接家を訪ね説明しながら参加者を募集するようにしている。

(委員長)

大人の中に、地域とのつながりをわずらわしいと思って避けたがる人がでてきたり、つながりを避けて生活することができる場所が存在してきたりした。

(委員)

人間はどこまでいっても人との触れ合いを求めるのではないか。

(委員)

コミュニケーションという言葉は日本らしくない気がする。コミュニケーションといってしまうと、機能集団で問題解決的に行き交うイメージがする。生涯学習という観点から考えた際には、これは違うのではないか。

(委員長)

生涯学習の中で人のつながりというものをどうしていくのか？
つながりということを考えていく中で、コミュニケーションということに焦点を当てることで、これらのことをあぶり出すことができるのではないだろうか。

*コミュニケーションという言葉をつめる時に、自分の所属する(所属した)団体などを対象にしてアンケートをお願いする。

(3) その他

- ・山城地方社会教育委員連絡協議会 総会 6月11日(金)について
- ・京都府社会教育委員連絡協議会 総会 6月11日(金)について
- ・新年度の委員名簿の配布について

(事務局)

別紙資料のとおり予定されているので、参加していただきたい。

<次回の会議について>

平成22年6月24日(木)午後1時30分から